

令和3年5月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

一般調査報告書

押し寄せるEV化の波～上海モーターショー2021～



世界最加速を誇るEVとして注目を集めた株式会社ASPARK(日本)のEV「OWL」(筆者撮影)

4月19日から28日、上海市において中国最大規模の自動車展示会である上海モーターショー（第19回上海国際汽車工業展覧会）が開催されました。中国のモーターショーは北京と上海で毎年交互に開催されており、上海での開催はコロナ前の前回から2年ぶりとなります。国内外から1,000社以上が出展し、10日間で延べ81万人が来場しました。前回2019年の来場者数の約99万人からは減少していますが、事前の本人確認登録、入場時の健康コード提示の義務化や検温、マスク着用などの厳格な防疫管理下で開催される展示会としてはかなり大規模なものとなりました。

昨年9月に行われた北京モーターショーでは、スマート化に関する技術や、新興EVメーカーの台頭が話題となりましたが、今年はそうした流れが更に加速し、特に電気自動車（EV）を始めとした「新エネルギー車（NEV）」に大きな注目が集

まりました。

今回は、上海モーターショーで話題となった中国EVの最新動向について報告します。

各社が新型EVを発表

昨年11月に中国国務院は、「新エネルギー車産業の発展計画(2021～2035年)」を発表し、2025年までに新車販売における新エネルギー車の割合を20%前後に引き上げ、2035年までには新車販売の主流を純EV（電気自動車）とする、という目標を掲げました。この目標の達成に向け、中国政府は補助金の支給や、投資ファンドによる自動車系スタートアップへの支援など、国を挙げた新エネルギー車の発展推進に取り組んでいます。

こうした流れを受け、今回の上海モーターショーでの出展は、「新エネルギー車(NEV)」を前面に押し出した展示が多く見られ、来場者の注目は各社の新型EVの発表に集中しました。

中国自動車工業協会によれば、3月の中国新車販売台数は前年同月比74.9%増の約253万台となっており、このうちEVは前年同月比3.5倍の19万台となっています。新型コロナウイルスの直接的な影響を免れている中国内の市場の拡大が、政府の政策を後ろ盾に、電動化の拡大につながっているものと考えられます。

日系自動車メーカーも電動化を前面に

今回のモーターショーでは、日系の自動車メーカー各社も新型EVを相次いで発表しました。

現在、中国内での日系自動車メーカーの新車販売は、一部に半導体の供給不足による影響を危惧する声はあるものの、新型コロナウイルスの影響による反動増も含め好調に伸びている状況です。

こうした追い風の中、EV市場での需要に食い込もうと日系各社も電動化を前面に押し出した展示を発表

しました。このうちトヨタ自動車（本社：豊田市）は、電動車のフルラインアップ化の一環として2025年までにEV15車種を導入する計画を推進中と発表しました。また、この発表の中でトヨタは、「環境車は普及し、CO2削減に貢献してこそ初めて環境車としての意義がある」すなわちサステナブル（持続可能）な移動手段をプラクティカル（実用的）な形で提供するとの考えのもと、HV/PHV/EV/FCVという電動車のフルラインアップ化を推し進め、様々な選択肢を用意」と述べており、「2025年までに70車種程度にラインアップを拡充」

日系自動車メーカー6社の中国新車販売台数

社名	3月	
トヨタ	166,600台	63.7%増
ホンダ	151,218台	2.5倍
日産	130,479台	78.0%増
マツダ	18,718台	44.5%増
三菱自	5,793台	15.2%増
SUBARU	1,774台	2.1倍

※公表資料を基に作成。比率は前年同月比増減率

するとしています。

また、ホンダや日産も中国市場に投入する新たなEV車種の発表を行うなど、各社が中国市場を重視し、特に環境をキーワードとした市場の発展性に着目した事業展開を進めていこうとしている姿勢を伺うことができました。



トヨタ自動車の出展ブース（筆者撮影）

中国EVメーカーの動き

中国の現地自動車メーカーの出展ブースでは、新型EVを展示している企業の展示ブースはやはり大盛況でした。特に今回は、EV業界をけん引する現地自動車メーカーの動きに大きく3つの流れがあったように思います。

一つ目は、蔚来汽車や小鹏汽車、理想汽車、威馬汽車といったEVメーカーで、かつては新興勢力とされてきた企業です。彼らは近年、さらに新たな新興勢力が台頭してきたことで、EVメーカーの老舗ブランド的な位置づけになってきたと言われていています。今回、蔚来汽車は、停車中に自動で電池交換を行える電池交換ステーションの展示を行い注目を集めました。

2つ目は、上海汽車や東風汽車といった中国の既存の自動車メーカ



蔚来汽車の電池交換ステーションの実演展示（筆者撮影）

一の傘下あるいはその新エネ車部門から派生してきた新興EVメーカーと言われる企業です。智己汽車や嵐凶汽車といったこれらのメーカーは既存の車作りのノウハウの上にIT化の進んだ高品質なハイエンド価格帯の量産モデルを強化しており、既存のEVメーカーにとっては手強いライバルとなる可能性もあります。

3つ目は、検索サイトで有名なバイドゥ(百度)やスマホで有名なファーウェイ(華為)などの大手IT企業による自動運転分野からのEV業界への参入です。こうしたIT大手各社は、既に中国内で自動運転技術の実証実験に取り組んでおりレベル4クラスの自動運転技術を確立しつつあります。彼らは自社の開発した自動運転システムを搭載できるEVメーカーとタッグを組むことで、自動運転を含むスマートカーの普及を更に強化していくものと思われます。電気自動車は自動運転を始めとしたスマート化とは非常に親和性が高いことから、今後はこうした大手IT企業とEVメーカーとの協業によるEVスマートカーの開発が更に進んでいくものと考えられます。

加速するEV化にどう対応していくか

上海モーターショーには自動車メーカーの他に、自動車に関連する部品メーカーなども数多く出展しています。今年はそうした部品メーカーにおいても、電動化に一段とシフトした展示が多く見られました。

デンソー(本社:刈谷市)は、自社出展ブースにおいて、2035年までに二酸化炭素(CO2)排出を実質的にゼロにするカーボンニュートラルを目指した取組として、EVの航続距離延長や充電時間短縮などに貢献する「エネルギーマネジメントシステム」などを紹介していました。

ブース担当者に、急速に進むEV化の影響についてお話を伺ったところ、「当社はクルマの電動化とは非常に相性が良く、この分野は環境負荷の低減と安全性の向上というコンセプトに沿って今後増々発展していくだろう」とのことでした。

ただ、一方で懸念もあります。中国政府の推進する「新エネルギー車産業の発展計画(2021~2035年)」では、前述したように、2025年までに新車販売における新エネルギー車の割合を20%前後に引き上げ、2035年までには新車販売の主流を純EV(電気自動車)とする、としています。現地で伺った意見の中では、「仮に中国政府がこの計画通りに政策を実行した場合、電動化部品ではなくエンジン関係の部品を専門に扱っているサプライヤーがどこまでその変化に対応できるのかは不明」と言った話も聞かれました。

また、ある方はこう言います。「電気自動車を考える時、子供の遊ぶプラモデルや模型のおもちゃを想像してみると分かりやすい」、すなわち「極論すれば電池とモーターと車輪があれば、誰でもどこでも簡単に車を作れてしまう。それが電気自動車であり、その「簡単」さが既存のサプライヤーにとっての正に脅威だ」と。これまでも、こうした変化に対する危機説は既に10年以上前か

ら言われてきたことではありますが、電池技術の向上やスマート化の進展によりEVへの完全シフトが現実化してきた今、ガソリンエンジンから電動化への産業構造の転換にどう対応していくのか、既存のサプライヤーが直面する深刻な課題となっているのは確かです



デンソーの出展ブース（筆者撮影）

多様なEV市場

上海モーターショーでは他にも様々なタイプのEVの出展が見られました。高級車の展示エリアでは、日本の株式会社ASPARKが開発した「OWL」が最も高価で最速のEVとして話題となりました。このEVは発進から時速100kmまでの加速が1.72秒という世界最高加速を誇るEVハイパーカーです。アジア地域では初のモーターショー出展となりました。

また、小型EVの中で特に人気を集めていたのは、上海通用三菱汽車の「宏光 MINI EV」でした。マイクロEVと呼ばれる超小型電気自動車の展示ブースには多くの来場者が集まっていました。販売価格が3万元（約51万円）程度という低価格が人気の要因で、直近の販売台数ではテスラの月間販売台数を上回ったという話もあります。既にマイクロEVの分野には多くの参入があるといい、超小型車から超高級車まで、EV市場では既に車種の多様化が始まっています。

日本国内よりもかなり早いペースで拡大していく中国EV市場の今後の動向が気になります。引き続き現地の状況を注視したいと思います。

参考：最近の中国内の主な動き

2021年

- 4月12日 ・広東省で外国人の新型コロナワクチンの接種予約開始
- 4月15日 ・中国最大規模の展示商談会「第129回中国進出口商品交易会（広

州交易会) 」がオンラインで開幕(～24日)

- 4月16日 ・中国国家统计局は、1～3月の実質国内総生産(GDP速報値)の成長率が前年同期比18.3%と発表
 - ・ Hondaは、自動運転技術のスタートアップ企業、AutoX社(深圳裏動智駕科技)と公道での自動運転走行実験で提携すると発表
- 4月19日 ・上海モーターショーが開幕(～28日)
- 4月21日 ・日本政府観光局(JNTO)は、3月の訪日中国人観光客が4,000人だったとの推計を発表
 - ・ 中国政府は、新型コロナワクチンの国内接種回数が累計2億回を突破したと発表
- 4月28日 ・上海市浦東新区に大型ショッピングセンター「三井ショッピングパークららぽーと上海金橋」がオープン
- 4月29日 ・全国人民代表大会(全人代)常務委員会で、反食品浪費法案を可決
- 5月7日 ・香港政府は、ワクチン接種済者の入国後隔離期間を5月12日から短縮する措置を発表(日本からは21日間→14日間)
- 5月8日 ・トヨタ自動車は、中国の4月の新車販売台数が前年同月比12.2%増の16万300台だったと発表

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。